

令和7年度 全国学力・学習状況調査神奈川県立中等教育学校の調査結果について

令和7年4月17日（木）（一部14日（月））に実施した全国学力・学習状況調査の結果について、県立中等教育学校前期課程3年生の生徒の学習及び生活の概況をお知らせします。

今回の分析結果を踏まえ、両校で協働しながら学力向上と教育課程や学習指導の充実・改善を図っていきます。

1 調査の概要

（1） 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2） 調査内容

① 教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

② 質問調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

（3） 調査結果の見方

調査結果は、県立中等教育学校全体の結果である。序列化や過度な競争につながらないようにするため、学校ごとの結果の公表は行わない。

2 教科に関する調査の分析・改善に向けて

【平均正答率】 (単位：%)

	国語	数学
県立中等教育学校	78	86.5
神奈川県（公立）	55	51
全 国	54.3	48.3

（文部科学省からデータ提供されたものより作成）

※理科については、実施日により異なる問題があるため、数値を載せていない。

(1) 国語に関する調査結果

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の各内容について全国の結果と比較すると、すべての領域において平均正答率が高くなっている。

《課題があった内容》

- ◆ [2]四「発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く」では、他の問題に比べ、やや正答率が低かった。
- ◆ [3]四「『一 榎木の実』に書かれている場面が、『二 釣の話』には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそうように考えた理由を書く」では、他の問題に比べ、やや正答率が低かった。

《改善に向けて》

- [2]四について
目的や状況、相手に応じて、様々な資料や機器を用いながら、話の要点や根拠を明らかにしたり、説明を補足したり、中心となる事柄を強調したりするなど、聞き手に分かりやすく伝えられるように指導していく。
- [3]四について
文章全体や部分における構成や展開を把握し、なぜこのような構成や展開になるのか、そのことがどのような効果につながるのかを自分なりに意味付け、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えられるように指導していく。

(2) 数学に関する調査結果

「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域について、全国の結果と比較すると、すべての領域において平均正答率が高くなっている。

《課題があった内容》

- ◆ [1]「素数の意味を理解しているのかをみる」では、他の問題に比べ正答率が低かった。
- ◆ [3]「多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる」では、他の問題に比べ正答率が低かった。

《改善に向けて》

- 新しく学習する概念や原理・法則などを確実に理解することが重要であり、既習の知識と関連付け、より深く理解できるように指導していく。また、「基本的な平面図形の性質を見いだし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確かめ説明すること」の指導における数学的活動を充実させ、その過程や結果について統合的・発展的に考察する場面を設定し、多角形の内角や外角の関係から多角形の角について考察できるように指導していく。

(3) 理科に関する調査結果

「粒子」、「生命」、「地球」の各領域について、全国の結果と比較すると、平均正答率が高くなっている。

《課題があった内容》

- ◆ [2] (1)「【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、

変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる」では、他の問題に比べ正答率が低かった。

- ◆ 〔7〕(2)「消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する」では、他の問題に比べ正答率が低かった。

《改善に向けて》

- 〔2〕(1)について

「変える条件」と「変えない条件」を整理し、条件を制御して行うことでどのような結果になるのかに対する見通しをもつことができるように、自分の考えを合理的に説明する機会を設定し、指導していく。

- 〔7〕(2)について

消化の際に物質が分解されることを、物質が物理的に小さくなることだけではなく、物質が化学的に消化される分解と結び付けて考える学習場面を設定し、生命活動を維持するために、消化器官で食物が物理的および化学的に消化され、栄養分が吸収される仕組みを理解できるように指導していく。

3 質問紙に関する調査の分析・改善に向けて

《良好であった内容》

- ◇ 「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）」の質問に対して、「101～200 冊」、「201～500 冊」、「501 冊以上」と回答した生徒の割合は、全国平均と比べて高かった。
- ◇ 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の質問に、「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全国平均と比べて高かった。

《課題があった内容》

- ◆ 「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」の質問に対して、「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」と回答した生徒の割合は、全国平均と比べて大幅に低かった。

《改善に向けて》

- 「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか」や「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか」などの ICT 機器の活用能力に関する質問に対しては、「とてもそう思う」と回答した生徒の割合は、全国平均よりも高かった。以上のような実態に応じ、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成するため、各教科等の特質や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールの一つとして ICT を積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることが必要である。